

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

入学定員増加を行う児童学専攻の入学定員設定の考え方であるが、指定保育士養成施設の指定の基準を定める児童福祉法施行規則の「一学級の学生数は、五十人以下であること。」「専任の教員は、おおむね、学生数四十人につき一人以上を置くものであること。」の規定、また、現在は1学年1学級50人体制であるが、より学生に目が行き届く教育を行うため1学級当たりの学生数を削減するという考えから、1学年2学級各40人体制で、入学定員80人とした。定員充足の見込については、過去5年間の志願者数等は資料1「入学志願状況等」のとおりで、志願者数が入学定員を、今回の入学定員増加幅以上に大きく上回っていること、国が保育士確保に向けた施策を積極的に打ち出しており、児童学専攻で取得できる保育士資格の需要の高まりが期待されることから、入学定員を80人としても十分学生を確保できると考える。

入学定員削減を行う児童教育専攻の入学定員設定の考え方であるが、文部科学省の教職課程認定基準において必要専任教員数が入学定員50人ごとに定められていることから、また、児童学専攻と比べれば低調ではあるが、資料1「入学志願状況等」のとおり志願者数が入学定員を上回っており、入学定員増加を行う児童学専攻に志願者が多少流れることを勘案しても、十分学生が確保できる数として、入学定員50人とした。

編入学定員削減を行う各学科・専攻の編入学定員については、資料2「編入学志願状況等」のとおり全体の平均編入学定員超過率が0.50前後であることから50%減を目安に、各学科・専攻のこれまでの志願状況等を勘案し、設定を行った。学科・専攻によっては、今回の編入学定員削減幅では、これまでの志願状況等に照らすと定員を充足しないことも考えられるが、元々少なめの編入学定員であるので、あまり大きくは削減しないこととした。また、社会情報学部では、多摩キャンパスから千代田キャンパスに移転して3年目を迎えることから、その移転効果が表れ、志願者数が増加することが期待される。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

入学定員増加を行う児童学専攻の定員充足の根拠となる客観的なデータは、前述の資料1「入学志願状況等」のとおりで、志願者数が入学定員を、今回の入学定員増加幅以上に大きく上回っており、平均志願倍率は10.34と高水準となっている。

入学定員削減を行う児童教育専攻、編入学定員削減を行う各学科・専攻については、前述のとおりである。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

広報活動としては、オープンキャンパスを年7回前後開催しており、資料3「オープンキャンパス来場者数」のとおり毎年多くの来場者がおり、たいへん好評である。また、予備校や新聞社等が開催する進学相談会は毎年100回前後、高校における進学説明会は180校以上で行っているほか、本学における公開授業、高校への出張授業など高大連携事業を積極的に行っている。加えて、本学主催・千代田区後援の大妻さくらフェスティバルをはじめとした地域連携活動を通じて、高校生以外に対しても本学のアピールに努めている。

千代田キャンパスでは再開発プロジェクトが完了し、平成25年のE棟を皮切りに、平成26年にF棟とJ棟、さらには、平成28年に講義室、ゼミ室のほか情報処理実習室・自習室、

研究室等を備えた地上8階、地下2階のH棟、平成29年度に2つのアリーナ、学生のためのアクティブラーニングスペース、講義室、ゼミ室等を備えた地上7階、地下2階のG棟が完成した。先進的な設備を備えた講義室、ゼミ室、実習室等が数多く配置され、学習環境が格段に改善されている。そして、このことは、学生確保に向けての大きなアピールポイントとなっている。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、その目的を以下のとおり定めている。

本学は教育基本法に基づき、学校教育法に定めるところに従い、広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究して、応用的能力の展開と人格の完成に努め、高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。

そして、これに適合させる形で、学科・専攻における「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」を定めている。

収容定員変更を行う学科・専攻における「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」は、以下のとおりである。

<家政学部>

新しい時代に求められる学びをリードする「未来志向型サイエンス」を主軸に教育を行い、自立心あふれる職業人を育成する。

《被服学科》

衣を通して、イメージーションにあふれる生活を創造し、新しい価値観と豊かな心を育み、夢のある社会の形成に参加できる人を育成する。

《児童学科》

子どもの成長を総合的に支援していくために必要な専門性をもった人材を育成する。

《ライフデザイン学科》

21世紀に求められる真に豊かな生活や自立した生き方をデザインし、提言できる人材を育成する。

<文学部>

「ことば」による広い意味でのコミュニケーションを教育のテーマとし、実技と知識・感覚の錬磨を学修と教育の両輪とすることにより、時代の進展に柔軟に適応できる有為な人材を養成する。

《日本文学科》

日本語と日本文学を通して、人間理解を深め、豊かな教養と人間性を養う。

《英語英文学科》

英語とそれを中心とした文学や文化の学修を通して、人間理解を深め、国際性豊かな人材を育成する。

《コミュニケーション文化学科》

国際性、現代性、学際性をキーワードに、社会・文化をとらえ、国際的なコミュニケーションの場で自立できる女性を育成する。

<社会情報学部社会情報学科>

現代社会が要求する情報リテラシーを修得し、高度に発達したIT社会で活躍することのできる人材を養成する。

《社会生活情報学専攻》

意思決定と自己表現ができる、社会知識のある女性を育成する。

《環境情報学専攻》

環境問題の発生から解決までを学び、総合的な視点を養うことのできる人材を育成する。

《情報デザイン専攻》

高度な情報処理能力によって情報システムを具現化できる人材、及びヒューマンスキルに基づいて情報を的確に表現できる人材を育成する。

<比較文化学部比較文化学科>

2カ国語を修得し、各地域毎の文学、美術、宗教、政治、歴史などを日本文化と比較研究することにより、急激に変化する国際社会にも柔軟に対応できる人材を育成する。

- (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠
学校法人大妻学院は、創立100周年を期して平成20年度に、同学院のミッションを以下のとおり定めている。

学祖大妻コタカの建学の精神を、新しい時代の文脈の中で、組織的に教育・研究・地域活動に活かすことにより、豊かな教養と思いやりの心をもち合わせた、真に自立した女性を育成し、社会関係資本の充実を図ることで、健全で持続可能な社会の実現に貢献する。

また、本学は、このミッションを推進するために必要な教育目標を以下のとおり定めている。

女子教育の伝統を基にした総合的な人間教育

専門職業人女性の育成教育

地域との連携における教育・研究面での中核的寄与および指導的人材の育成

これらの教育目標に掲げられているものは、現代社会で求められている人材であり、学科・専攻で媒体は異なるものの、このミッション・教育目標が根幹をなしている上記(1)の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」は、社会的・地域的な人材需要の動向等に合致したものである。

入学定員増加を行う児童学専攻の分野は、学生の就業意欲が高い分野である。全国レベルでは、過去5年間における卒業者に占める就職者の割合は、学校基本調査の「関係学科別状況別卒業生数」によれば、児童学専攻の分野である「家政－児童学関係」は90%以上で推移している。資料4「卒業者に占める就職者の割合」は、本学児童学専攻と全国とで比較したものであるが、本学児童学専攻の割合も全国と同様で高く、平成28年3月卒業生以外で全国の割合を上回っている。

また、資料5「就職希望者に占める就職者の割合」は、入学定員増加を行う児童学専攻の過去5年間における就職希望者に占める就職者の割合を示したものであるが、ほぼ100%で推移している。

このように、卒業生の多くが就職を希望し、実際に就職できているということから、児童学専攻の就職状況は好況であるといえる。

さらに、本学への求人についてであるが、資格が必要な特定業種を除き、ほとんどが対象学科・専攻の指定がないものとなっており、特定の学科・専攻に限定した求人受理件数としては

明らかにすることはできないが、本学全体の状況は資料6「卒業者に対する求人受理件数の割合」のとおりであり、平成29年3月卒業者対象の求人受理件数の割合は過去5年間で最も高く、7.5倍となっている。1件の求人票で複数名の求人もあることから、実際はこの求人票受理件数以上の求人がきており、また、景気の緩やかな回復や人手不足などを受けた企業の採用意欲の高まりは今後も続くことが予想されるため、十分な人材需要があると考えられる。

なお、児童学専攻限定の保育士、保育教諭の求人について言えば、直近の3年間で1,000件を超えており、人材需要としては十分である。

資料1

入学志願状況等

学部等名	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
家政学部 児童学科 児童学専攻	入学定員	50	50	50	50	50
	志願者数	505	534	587	517	444
	受験者数	492	516	557	490	418
	合格者数	77	88	81	87	91
	入学者数	51	54	50	52	54
	志願倍率	10.10	10.68	11.74	10.34	8.88
	入学定員超過率	1.02	1.08	1.00	1.04	1.08
児童教育専攻	入学定員	50	50	50	50	60
	志願者数	330	445	376	252	268
	受験者数	314	426	363	237	256
	合格者数	111	129	99	94	130
	入学者数	63	61	59	61	67
	志願倍率	6.60	8.90	7.52	5.04	4.46
	入学定員超過率	1.26	1.22	1.18	1.22	1.11

資料2

編入学志願状況等

学部等名	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
家政学部 被服学科	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	2	5	5	4	4
	受験合格者数	2	5	4	4	4
	編入学者数	1	2	2	2	1
	志願倍率	0.20	0.50	0.50	0.40	0.40
	編入学定員超過率	0.10	0.20	0.20	0.20	0.10
ライフデザイン学科	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	17	30	15	29	27
	受験合格者数	16	30	15	28	27
	編入学者数	10	10	10	10	10
	志願倍率	1.70	3.00	1.50	2.90	2.70
	編入学定員超過率	0.90	1.00	1.00	1.00	1.00
文学部 日本文学科	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	22	11	9	12	6
	受験合格者数	21	11	9	12	6
	編入学者数	12	9	6	10	3
	志願倍率	2.20	1.10	0.90	1.20	0.60
	編入学定員超過率	1.10	0.90	0.30	0.90	0.30
英文学科	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	24	21	16	14	13
	受験合格者数	22	21	16	13	13
	編入学者数	12	13	11	11	12
	志願倍率	2.40	2.10	1.60	1.40	1.30
	編入学定員超過率	1.20	1.10	0.90	1.00	0.80
コミュニケーション文化学科	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	14	14	14	14	14
	受験合格者数	14	13	14	14	13
	編入学者数	10	11	11	11	11
	志願倍率	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40
	編入学定員超過率	1.00	1.00	1.00	1.10	0.60
社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学専攻	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	2	9	2	5	12
	受験合格者数	2	8	2	5	12
	編入学者数	2	7	2	4	9
	志願倍率	0.20	0.90	0.20	0.50	1.20
	編入学定員超過率	0.10	0.50	0.10	0.20	0.70
社会情報学科 環境情報学専攻	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	2	4	3	3	3
	受験合格者数	2	3	3	3	3
	編入学者数	2	3	3	3	3
	志願倍率	0.20	0.40	0.30	0.30	0.30
	編入学定員超過率	0.00	0.20	0.10	0.20	0.20
社会情報学科 情報デザイン専攻	編入学定員数	10	10	10	10	10
	志願者数	0	1	0	3	4
	受験合格者数	0	1	0	3	4
	編入学者数	0	1	0	3	2
	志願倍率	0.00	0.10	0.00	0.30	0.40
	編入学定員超過率	0.00	0.10	0.00	0.30	0.20
比較文化学部 比較文化学科	編入学定員数	15	15	15	15	15
	志願者数	11	10	10	11	9
	受験合格者数	11	10	9	11	8
	編入学者数	8	10	8	4	7
	志願倍率	0.73	0.66	0.66	0.73	0.60
	編入学定員超過率	0.33	0.26	0.26	0.20	0.46
全体	編入学定員数	95	95	95	95	95
	志願者数	94	105	74	95	92
	受験合格者数	90	102	72	93	90
	編入学者数	57	66	53	58	58
	志願倍率	0.98	1.10	0.77	1.00	0.96
	編入学定員超過率	0.51	0.56	0.42	0.54	0.48

※ 入学定員削減を行う児童教育専攻を除く千代田キャンパスの学科・専攻

資料3

オープンキャンパス来場者数

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
15,331	17,683	17,766	16,803	※ 15,457

※ 平成29年度の来場者数には、平成30年3月24日(土)開催の学科説明会の来場者は含まれていない。
なお、同説明会については、平成27年度は1,479名、平成28年度は1,573名の来場者があり、平成29年度も1,500名以上の来場者を見込んでいる。

資料4

卒業者に占める就職者の割合

学部等名	分野(学科系統)	卒業年月	卒業者	就職者	割合	全国(同一の学科系統)		
						卒業者	就職者	割合
家政学部 児童学科 児童学専攻	家政－児童学関係	平成25年3月	52	51	98.1%	1,064	965	90.7%
		平成26年3月	56	53	94.6%	1,156	1,053	91.1%
		平成27年3月	47	46	97.9%	1,106	1,015	91.8%
		平成28年3月	50	45	90.0%	1,163	1,083	93.1%
		平成29年3月	51	50	98.0%	1,193	1,138	95.4%

※ 学科系統、全国の数値は学校基本調査による。

資料5

就職希望者に占める就職者の割合

学部等名	卒業年月	就職希望者	就職者	就職希望者に占める就職者の割合
家政学部	平成25年3月	51	51	100.0%
児童学科	平成26年3月	55	53	96.4%
児童学専攻	平成27年3月	46	46	100.0%
	平成28年3月	45	45	100.0%
	平成29年3月	50	50	100.0%

資料6

卒業生に対する求人受理件数の割合

学部等名	卒業年月	卒業生	求人受理件数	割合
大妻女子大学	平成25年3月	1,593	7,254	4.6 倍
	平成26年3月	1,632	7,686	4.7 倍
	平成27年3月	1,585	9,130	5.8 倍
	平成28年3月	1,619	10,232	6.3 倍
	平成29年3月	1,581	11,893	7.5 倍